

【件名】

区立小中学校の学校改築時期の再検討について

【要旨】

標記の件について、小中学校施設整備計画（改定版）（以下「現計画」という）の見直し作業において、改築順位の考え方についての整理や、今般の区の状況を踏まえ、学校改築にかかる再検討を行った結果、下記のとおり、改築時期を見直すこととする。

記

1 現計画で改築時期が示されている学校について

(1)第二中学校の改築時期について

現計画では、第二中学校は、次年度から新校舎整備の基本計画検討を開始する予定だが、以下の理由から、改築時期を見直すこととする。

①中野本郷小学校通学児童に対する配慮について

現計画では、中野本郷小学校と第二中学校の改築時期が近いため、現在、代替校舎へ通う児童が第二中学校の改築時に、再度同じ代替校舎に通学する予定である。

中野本郷小学校の改築に伴い、遠距離のため、通学バスを利用し代替校舎へ通学している児童がおり、このような状況をあらためて検討した結果、現在通学する児童について配慮する必要があると判断した。

②躯体の健全性・耐久性の調査結果について

第二中学校の躯体の健全性・耐久性の調査結果が概ね良好であり、適切な保全措置等を行った上で、築 80 年まで継続して使用可能であると判断した。

③学校改築に向けた調査結果について

今年度、改築に向けた現地調査やインフラ等の基礎調査を行った結果、校舎棟のみの部分改築とした場合、校舎棟と屋内運動場棟をつなぐ渡り廊下の接続が困難であることが判明した。

このため、体育館棟も含めた改築も考えられるが、体育館棟は築年数が浅いうえ、近年大規模改修を終えたばかりであることから、経済的合理性を踏まえ、第二中学校の改築時期を先送りすべきと判断した。

(2)他の小中学校の改築時期について

「中野区立小中学校施設整備計画（改定版）見直しの考え方」（令和 6 年 12 月 3 日子ども文教委員会資料）で示したとおり、現計画の見直しにあたっては、改築ペースや改築順

位の考え方を見直すことから、現計画に示す桃花小学校、北中野中学校、武蔵台小学校の改築時期は、少なくとも令和11年度以降となる予定である。各校の詳細な改築時期については、令和8年度に改定する小中学校施設整備計画で明らかにする。

2 南中野中学校の改築時期について

南中野中学校については、下記の理由から、旧新山小学校を代替校舎として活用し、改築の早期着手を検討する。

(1) 学校改築に向けた調査結果について

今年度、改築に向けた現地調査やインフラ等の基礎調査を行った結果、現計画のとおり、代替校舎（プレハブ）を現地に設置し改築した場合、工事の制約が多く発生し改築期間が長期間に渡ることが判明した。

工事期間中は校庭が使用できず授業や部活動に制限がかかることや、工事による振動・騒音のある状態が続き、学習環境への相当の負担が懸念される。適切な学習環境を維持するため、旧新山小学校を代替校舎として活用した改築を行うことが望ましいと判断した。

(2) 代替校舎の活用について

現中野区有施設整備計画において、旧新山小学校については、「代替校舎・まちづくり用地として活用」と示されているが、南台小学校校舎として使用後、当面の間、まちづくり用地としての具体的な活用計画は未定となっている。

この状況を踏まえ、改築時期を前倒しし、旧新山小学校を代替校舎として活用することが適切であると判断した。

(3) 躯体の健全性・耐久性の調査結果について

南中野中学校の躯体の健全性・耐久性の調査の結果、校舎棟の一部のコンクリート圧縮強度が低いことが分かった。耐震性・安全性に問題はないものの、今後長期に継続して使用する場合の改修コストが高くなるおそれがあることから、残りの使用年数を踏まえた経済合理性の観点から、早期の建替えが適切と判断した。

3 今後のスケジュールについて

令和7年度～令和8年度 小中学校施設整備計画改定素案の公表

令和8年度中 小中学校施設整備計画改定